

第5弾 コロナ禍に伴う早川たかしの「遊び力」提案

提言(①②)を提言前にすでに直感、すぐ実践

園児の家庭(246)に「皿回し」をプレゼント!

今だからやろう! 保育士のたっぷり「遊び力」研修を実施!

～ 熊本県・ひまわり幼稚園と可児市・かわい幼稚園の園の先見性 ～

私は独自の子育て支援講演(「皿回し遊びのワークショップ」付き講演)を全国で行ってきました。テーマは「大人こそ必要な『遊び力』&『子ども力』」です。講演の内容は、今回の「提言」そのものなのです。特に、「コロナ禍」になったから、書いたものではないのです。しかし、これまで講演会を企画していただいたひまわり幼稚園の園長・菅原雅子先生とかわい幼稚園の園長・柘植先生は、まさに「先見の明」をもって、「今まさに家庭に遊び力支援が必要!だ」、「今まさに、保育現場に遊び力支援が必要だ」と直感されたのだと思います。事例を紹介します。

5月1日(金)、連休最中の朝10時に電話が鳴りました。こんな時期に誰だろうと受話器を取ると、突然「早川センセー元気にしとる?」と、大きな声が聞こえてきました。すぐに熊本の長洲町ひまわり幼稚園長の菅原先生だと分かりました。私は「あんまり元気ないー(妻が3月に他界)」と答えました。すると、「なら、元気にしてあげる。お皿回しセット246注文しまーす。どーう、元気でたでしよーう」との声が。まさに晴天の霹靂。「ええっ! 本当ですか(前代未聞)」というのと、「火の国の女は嘘つかない。すぐ送ってね。」という会話が続きました。

5月7日(木)、ふと、昨年に講演会を企画していただいた可児市・かわい幼稚園に電話をしました。コロナ禍の中、現場の様子をお聞きしたく。副園長の水戸先生がでてくれました。「現場はいかがですか?」と声をかけると、「センセー お久しぶりです。今日これから研修で皿回しをするところですよ。」と返ってきました。「えっ、何ですか?」と訊くと、「コロナで休園中なので、こんな時こそ『遊び研修』をたっぷりやろう!ということになったのです。」とのこと。これは、私が提言②「保育現場へのエール」で書いたことです。まだ、この提言を公表してない時に、かわい幼稚園では、「今必要なのは、今現場でできることは これだ!」と直感し、実践しておられたのです。

長洲ひまわり幼稚園

八十八夜も過ぎ、夏の訪れを感じるころとなりました。皆様お元気でお過ごしでしょうか。例年なら楽しいゴールデンウィークでしたが、外出もできず、ステイホームによる大変さと、ご心配な日々を過ごされたことでしょうか。「ひと時もじっとしていない子どもが元気の証拠」と言われる 子ども達にとっては、我慢の日々だった事と痛感しています。日頃から楽しい毎日を過ごしてほしいと念願していました。今日はその一助になればと思い「家族本気での遊び」をしてほしいと皿回しの道具一式をプレゼントいたします。(必ず家で子どもの名前を、皿と棒に書いてください) みんなで楽しく遊んでください。以前に、ひまわり幼稚園の職員研修に講師としてご来園いただいた早川たかし先生(富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊)のホームページよりNEWS > 遊び提案動画「皿回し」をクリックすると、皿回しの解説動画を見ることが出来ます。新型コロナウイルスがおさまったら、「園内皿回し大会」をしたいと思っておりますので、お母さんお父さんといっぱい遊びましょう。

可児市。かわい幼稚園

新型コロナウイルス感染症対策とし、岐阜県より休業要請が出たため現在かわい幼稚園も休園状態です。昨年度可児市の幼稚園教育協議会で早川先生に遊びの研修をしてい

いただきました。市内の幼稚園教諭が集まり、教諭同士が自ら楽しむことにより遊びの楽しさや人と触れ合う大切さを学ぶことができました。

今は休園中で子どもたちは園に登園できませんが、本園ではこういう時こそ職員の資質を高めるチャンスととらえ、毎日様々な職員研修を行っています。特に遊びについても、教諭自身が遊び込んで楽しさや喜び、特徴などを知ること、子どもたちにたくさんのお話を伝えられると思い、研修しながら子どもたちを迎える準備をしています。

以上よろしく申し上げます。

かわい幼稚園 柘植

早川コメント

「お皿回しセット246注文しまーす。」という菅原雅子園長の声を聞いたときに、わたしはどこかで、いつか聞いた心の「トーン」だと無意識に感じました。3.11東日本大震災時に渡辺久子が「震災後郡山市子どもの心のケアプロジェクト」を立ち上げられた時、「今だから、皿100枚もって郡山へ行くのよ!」と、呼びかけられました。私は逡巡していました。「たわいない遊びは、激甚災害で傷心した人々、原発の被害に疑心暗鬼している人々に、役立つのだろうか」と。そんな同じような想いが、蘇ってきました。この時期私は2008年7月に起きた「子どもイタズラ村・親子合宿」でのY君（10歳）の死亡事故後の処理（刑事や民事）を背負っていました。NPOの活動に自信をなくしていました。

重なるのです。「コロナ禍」と「3.11」、そして、「相棒。妻恵子の死」と「Y君の事故」。私の「危機」の時期に、「遊び力」が必要だと励ましていただけた人がいるということに感謝いたします。

最後に、いえるのは、「遊ぶ」ことが、「緊急事態」だから必要だと言うことではないということです。子どもという成長生命体にとって、大人という子どもを育てる生命体にとって、過去、現在、未来永劫、「遊び」は欠くべからざる「世界」・「宇宙」なのではないでしょうか。

添付 ①かわい幼稚園での研修の写真 ②ひまわり幼稚園での家庭での写真